

Japanese Society for the Advancement of Women's Imaging (JSAWI2025)

常田 慧徳

北海道大学病院 放射線診断科

2025年9月29日論文受領、最終受理2025年10月3日

今回、私は2025年9月26日、27日に開催されたJSAWI2025 (Japanese Society for the Advancement of Women's Imaging 2025) 第26回シンポジウムに参加しました。JSAWIは例年通り、淡路島の淡路夢舞台国際会議場で開催されました。

今年は専攻医の小栗耕平先生が「術前診断が困難であったADC低下を伴う両側漿液性腺線維腫の一例」という演題を発表するに当たり、指導医として参加しました。この症例は現在北海道がんセンターに勤務している上石崇史先生が最初に診断して下さった症例です。発表にあたりいろいろと助けていただいた上石先生には感謝申し上げます。

私は今回がおそらく4回目の参加だと思っています。JSAWIの会場はホテルニッコー淡路というリゾートホテルで、ホテルスタッフもアロハシャツを着用しており、学会全体になんとなく開放的で明るい雰囲気が漂っています。そのため、参加すると気分が上がる大変魅力的な学会だと思っています。夜

はテラスでバーベキューがあり、暖かい気候も相まってこれも心地よく過ごすことができます。今年は自治医科大学附属さいたま医療センターの加藤扶美先生も交え、北海道大学にゆかりのある先生と夜遅くまで近況について語り合い、交流することができました。

JSAWIの大きな特色は、産婦人科・放射線科・病理診断科の三科が一同に会して、最新の知識について共有・議論することができる点にあると思います。今年は例年よりも臨床的な話題が多く取り上げられており、特に婦人科癌に対する最近の治療のアップデートに関して多く学ぶことができました。また、興味深い一般演題も複数あり、特に胎児MRIに関する演題は非常に有用で、明日からの診療にも早速取り入れたいと思っています。

最後に、この度、助成をいただいた宮坂アワードおよび関係各位には感謝申し上げます。ありがとうございました。



左から上石 崇史先生、小栗 耕平先生、筆者